

総合評価方式を評価する視点

総合評価方式は、**価格**だけでなく、**技術力**もある会社と契約を結ぶこと、そして、**良い工事目的物**を完成させることを目的としている。

このことから、**入札段階**と**竣工段階**で評価する。

。試行件数

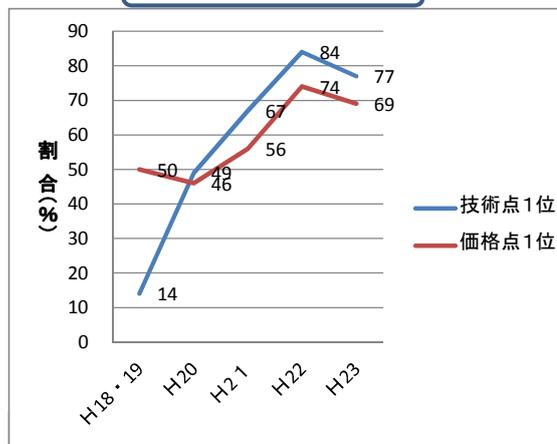
年度	件数
H18	4件
H19	10件
H20	137件
H21	115件
H22	125件
H23	275件
合計	666件

※平成23年度の有効件数は271件

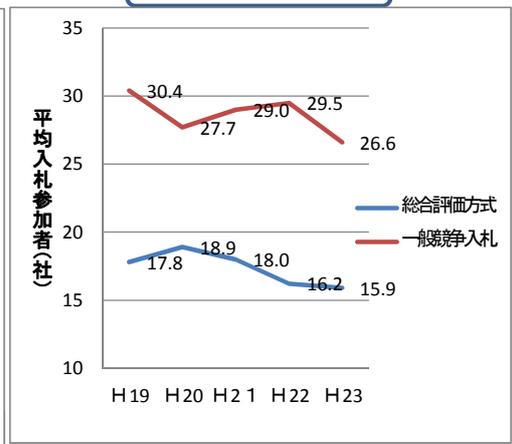
入札段階の評価

- ・落札者は、技術点・価格点の最高得点者の占める割合が概ね増加傾向にある。
- ・過去の3年間では、落札者の技術点1位の占める割合が価格点1位の占める割合に比べ10%程多くなっている。

総合評価方式の入札結果



平均入札参加者数



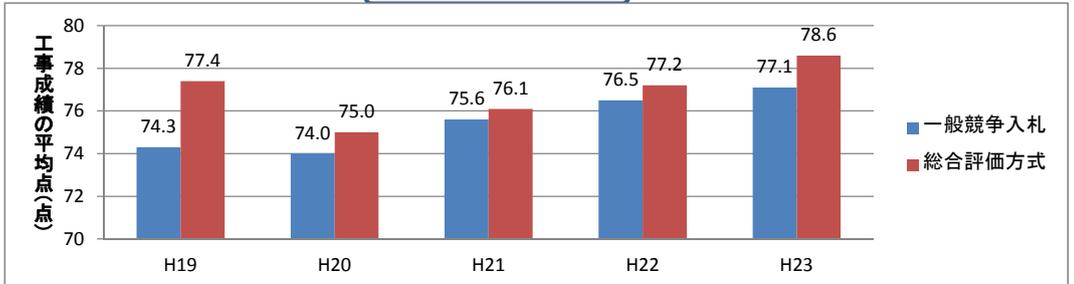
平均入札参加者数

- ・平均入札参加者数は、緩やかに減少傾向にある。
- ・一般競争入札と総合評価方式の参加者数の差は11社前後で概ね一定である。

竣工段階の評価

- ・総合評価導入後、工事成績が年々高くなっている。
- ・又、総合評価方式による工事成績の平均点が一般競争入札に比べて高くなっている。

工事成績の変化



まとめ

- 以上により**総合評価方式**は、価格のみ評価する**一般競争入札**と比べ
- ・技術力を持ち合わせた会社との契約
  - ・質の高い工事目的物の完成
- という目的に対して、一定の効果が出ており、工事の品質向上につながっていると思われる。  
又、総合評価方式の参加者数の拡大のため、参加業者の負担の軽減に努める必要がある。

。平成24年度試行にあたっての改善事項

課題	改善事項
中小企業の経営に負担	・相対的に技術力の評価を上げることとし、地域貢献度の配点の軽減や案件により評価しない項目の設定（入札参加者数の拡大） ・対象工事1,000万円以上を、土木工事などは2,500万円以上に、建築一式工事は5,000万円以上に変更（平成23年10月から）
特定企業に過度の受注	持ち点制を設け、受注回数に応じて持ち点を減点
若手技術者の育成	案件により現場代理人としての経験を評価（地域企業育成）